

2022 年度 特待入試

第 2 回

国 語

〔注意事項〕

- 1 問題は一から四までです。
- 2 時間は 50 分です。
- 3 下敷きおよび電算機つきの時計の使用を禁止します。
- 4 解答は、濃くはっきりと書くようにして下さい。
- 5 開始の合図があるまで問題用紙を開かず、手を触れないで下さい。
- 6 考査中はよそ見をせず、きちんとした態度で行って下さい。
- 7 何か物を落としたら、黙って手をあげて下さい。
- 8 他の受験生に迷惑となるような行為をしないで下さい。

— 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

情報を A せず 「 B 」 せよ

いま、あなたは本を読んでいる。

それが紙の本なのか、電子書籍なのか、形式はわからない。ともかく「本」として書かれた、文字の連なりをじっと読んでいる。

ここでいったん、文字から目を離し、ページ全体を眺めてみてほしい。ページには、数百の文字が並んでいる。遠目に見ても、それが文字列であることは理解できる。意識せずとも、いくつかの単語を拾うこともまた、できるだろう。

しかし、その連なりがあらわすところの「意味」を拾おうとした途端、全体を見ることはかなわなくなる。任意の一点にピントを合わせ、そこから視線を移動し、ひとつずつ文字を追っていかなければならない。ページ全体をぼんやり眺めているだけでは、なにも読めない。自分の目で、自分の意志で読みに行ってしまう。文章を読むことができる。

このように、あなたがなにかを読んでいるとき、そこにはかならずあなた自身による働きかけ（能動）がある。あなたは身を乗り出して「読み」に行っている。本にかぎらず、なにかを読もうとするときは、決して受け身ではありえない。能動こそが、読むことの前提なのだ。

ならば、こう言い換えることもできるだろう。① ぼんやり街を歩いていても、ぼんやりテレビ画面を眺めていても、なにひとつ読むことはできない。それは街並みやテレビ画面を「見て」いるだけで、能動的に「読んで」いないからだ。

たとえばあなたが、1本の映画を観に行ったとしよう。話題のハリウッド超大作を観に行ったとしよう。映画は基本的に——ましてやハリウッド超大作ならば——なにも考えなくてもたのしめるよう、つくられている。ジェットコースターのように、椅子に座ってしまえば最高のエンターテインを享受できる^{※きょうじゆ}よう、できている。上映終了後、椅子から立ち上がって「あー、おもしろかった」と背伸びしたとき、あなたはその映画を「読んだ」と言えるだろうか？

否である。

それは受動の鑑賞であって、どこにも能動がない。能動的に読む人は、映画を映画としてたのしみつつ、ジェットコースターから降りることも辞さない。そして自分のところが揺さぶられた瞬間、なによってところが動いたのか、そのからくりを読み解く意志と落ち着きを持っている。つくり手の意図を、仕掛けを、その構造を考える。自分なりの仮説を立て、自分なりの解を出す。それが取材者に必要な能動的読書であり、鑑賞だ。また、真の傑作とはそうした観客たちの「読み」をはね返すだけの力を持っている。ことばや理屈では分析しきれない感動を提供するものが、アートだ。からくりが見え見えの感動は、たとえリットルの涙を誘ったとしても、その程度の作品でしかない。

あるいは、そば屋さんに入ったときのことを考えよう。

仮に天ぷらそばを注文したとする。できあがるまでに10分間かかるとする。このとき、多くの人はスマートフォンをいじるなどして時間をつぶす。新着メールを確認し、最新ニュースをチェックして、*ソーシャルメディアを読み込んでいく。もしかしたらそれを「隙間時間すきまじかんを利用した情報収集」くらいに考えている人も、いるかもしれない。

しかし、スマートフォンをいじることなんて、お風呂のなかでもトイレのなかでもできることだ。取材者であるならば、「そば屋の待ち時間にしかできない取材」を考えたい。

たとえば、テーブルの上には七味唐辛子が置かれているだろう。「そういえば七味唐辛子の「七味」って、なんのことだろう?」と考える。瓶びんの成分表示を見ると、唐辛子、山椒さんしょう、陳皮ちんぴ、麻の実、けしの実、黒ごま、青のり、と書いてある。ここでようやくスマートフォンを取り出し、たとえば「陳皮」について調べる。それが乾燥させた蜜柑みかんの皮であることを知る。——これが「そば屋の待ち時間にしかできない取材」であり、取材者らしい日常の姿だ。^④

なお、もしも七味唐辛子について原稿げんこうを書くことになった場合は、陳皮や麻の実、けしの実など、味や香りの想像がつかないものについて、実際に食べてみる必要があるだろう。そして「なぜ、うどんやそばの薬味として、この「七味」を組み合わせたのか」について、自分なりに考え、結論を出していく必要がある。ジャッジしていく必要がある。

おぼえておこう。ライターに必要なのは、情報を「キャッチ」する力ではない。そんなものは検索エンジンにでも任せておけばいい。能動的に読むとは、情報を「ジャッジ」することだ。自分なりの仮説を立てていくことだ。

まずは対象を、じっくりと「観察」すること。そして観察によって得られた情報から「推論」を重ねていくこと。直感で判断せず、かならず理を伴ともなった推論を展開していくこと。さらに推論の結果として、自分なりの「仮説」を立てること。こうに違いない、と思えるところまで考えを進めること。

対象はスリッパでもケチャップでもゾンビ映画でも投げ込みチラシでも、なんでもいい。受動的にキャッチするだけの人から、能動的にジャッジしに行く人になるろう。

ライターとは、みずからの立てた仮説を取材のなかで「検証」し、「考察」する仕事でもある。^⑤いい取材者であるためには、普段から「観察—推論—仮説」の習慣を身につけておかねばならない。

古賀史健『取材・執筆・推敲 書く人の教科書』より

* 享受……受け取ること、自分のものとして味わうこと。

* ソーシャルメディア……インターネットを利用し個人が発信することのできる情報サービスのこと。

問一 本文の章題である「情報を」 A 「せよ」とありますが、 B に入る語を五字以内で抜き出してそれぞれ答えなさい。

問二 部①「ぼんやり街を歩いていても、ぼんやりテレビを眺めていても、なにひとつ読むことはできない」とありますが、これはなぜですか。その説明として最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 受動的に情報を受け取っているだけでは、自分の意志による働きかけが足りないから。
- イ 能動的に情報を受け取ることが、自分の意志で意味と向き合うことにはならないから。
- ウ 受動的に情報を受け取ることが、自分自身の読みにつながっていくことになるから。
- エ 能動的に情報を受け取っているだけでは、自分自身の読みが生まれることはないから。

問三 部②「そのからくりを読み解く意志」とはどういうことですか。五十字以内で説明しなさい。

問四 部③「山椒」とありますが、山椒という植物には「山椒は小粒でもびりりと辛い」ということわざがあります。この意味を説明したものとして最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 効き目の強いものは少量ずつ使うのが良いということ。
- イ 小柄な人ほど怒らせてしまうと恐ろしいということ。
- ウ 幼い子は時として素晴らしい発想力を持つということ。
- エ 身体の小さい人でも、あなどってはいけないということ。

問五 部④「取材者らしい日常の姿」とありますが、作者が本文中で主張する「取材者らしい日常の姿」の例としてふさわしくないものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア スーパーにて、売られている食材から何が作れるかをスマートフォンで検索すること。
- イ 病院にて、診察前にこれまでの体験を思い出して自分の病状を予測しておくこと。
- ウ レストランにて、注文したものが提供されるまでの間に読みかけの本を読み進めること。
- エ 学校にて、校庭に生えている花について注目に注目し図鑑でその種類を調べてみることに。
- オ 旅行先にて、売られているお土産からその土地の名産や歴史に興味を持ち調べることに。

問六 部⑤「いい取材者であるためには、普段から『観察―推論―仮説』の習慣を身につけておかねばならない。」とありますが、もしあなたが取材者として今目の前の机の上にあるものについて原稿を書く必要があるとしたら、何を観察してどのような仮説を立てますか。何を観察するかを明確にした上で、説明しなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

もう少し、AIと共存していく社会について、考えてみましょう。AIは何らかの答えを出してくれますが、問題はその答えが正しいかどうかの検証をヒトがするのが難しいということです。大切なことは、何をAIに頼って、何をヒトが決めるのかを、しっかり区別することでしょう。

よく使われるものとして、データをコンピュータに学習させて、それを基に分析を行う機械学習型のAIがあります。これは過去の事例からの条件（重み付け）にあった最適な答えを導き出すので、その学習データの質で答えが変わってきます。画像診断AIのように、見落としがないかなど医師の診断を助ける道具としては非常に役に立ちます。ただ、例えば過去の事例にないケースの判断は難しいのですが、その場合には「正解を知っている」医師が判断すればいいので問題はあり
①
ません。

機械学習型ではなく、SF映画に登場するヒトのように考える汎用型人工知能はどうでしょうか？ まだ開発途中ですが、さまざまな局面でヒトの強力な相談相手になることが期待されています。こちらはヒトが「正解を知っている」わけではないので、使い方を間違うとかなり危険だと思っています。なぜなら、ヒトが人である理由、つまり「考える」ということが激減する可能性があるからです。一度考えることをやめた人類は、それこそAIに頼り続け、「主体の逆転」が起っ
てしまいます。ヒトのために作ったはずのAIに、ヒトが従属してしまうのです。

ではそうならないようにするには、どうすればいいのでしょうか。私の意見としては、決して「ヒトの手助け」以上にAIを頼ってはいけないと思います。あくまでAIはツール（道具）で、それを使う主体はリアルなヒトであるべきです。

「いや、AIのほうが賢明な判断をしてくれるよ」とおっしゃる方もおられるでしょう。しかし、それは時と場合によります。いつも正しい答えが得られるという状況は、ヒトの考える能力を低下させます。ヒトは 、つまり間違えることから学ぶことを成長と捉え、それを「楽しんで」きたのです。喜劇のコントの基本は間違えて笑いを誘い、最後はその間違いに気づくことが面白いのです。逆に「悲劇」は、取り返しがつかない運命に永遠に縛られることに、恐怖と悲しみを覚えるのではないのでしょうか。

AIは、人を楽しませる面白い「ゲーム」を提供するかもしれませんが、、リアルな世界では、AIはヒトを悲劇の方向に導く可能性があります。そして何よりも私が問題だと考えるのは、AIは死なないということです。
②

私たちは、たくさん勉強しても、死んでゼロになります。そのため、文化や文明の継承、つまり教育に時間をかけ、次世代を育てます。一世代ごとにリセットされるわけです。死なないAIにはそれもなく、無限にバージョンアップを繰り返します。
③

私は1963年の生まれで、大学生の時（1984年）にアップル社からマッキントッシュ（Mac）のコンピュータが発売され、その後ウィンドウズが誕生したのを体験してきました。ゲームも、フロッピーディスクに入った「テトリス」を8イン치의白黒画面でハイスコアを競ったものです。その後のパソコン、ゲーム機、スマホなどの急速な進歩は、本当に驚きです。

私はコンピュータの急成長も可能性も脆弱性も知っている「生みの親」世代です。そしてコンピュータが「生みの親」より賢くなっていくのを体感してきました。

B AIの危険性、つまりこのままいったらやばいと直感的に心配になるのかもしれませんが、いつまで経っても子供が心配な親の心境に似ています。その危機感について、自分の子供に相当する世代には警鐘を鳴らすことができますが、孫の世代にはどうでしょうか。孫たちにとってはヒト（とくに親）の能力をはるかに凌駕したコンピュータが生まれながらにして存在するのです。タブレットで読み・書き・計算を教わり、私情が入らないようにと先生代わりのAIが成績をつけるという時代にならないとも限りません。そんな孫の世代にとっては、AIの危険性よりも信頼感のほうが大きくなるのは当然です。

死なないAIは、私たち人間と違って世代を超えて、進歩していきます。一方、限られた私たちの寿命と能力では、もはや複雑すぎるAIの仕組みを理解することも難しくなるかもしれませんね。人類は一つの能力が変化するのに最低でも何万年もかかります。その人類が自分たちでコントロールすることができないものを、作り出してしまったのでしょうか。

進歩したAIは、もはや機械ではありません。ヒトが人格を与えた「エイリアン」のようなものです。しかも死にません。どんどん私たちが理解できない存在になっていく可能性があります。

死なない人格と共存することは難しいです。**C**、身近に死なないヒトがいたら、と想像してみてください。その人とは、価値観も人生の悲哀も共有できないと思います。非常に進歩したAIとはそのような存在になるのかもしれませんが。

多くの知識を溜め込み、いつも合理的な答えを出してくれるAIに対して、人間が従属的な関係になってしまう可能性があります。私たちがちょうど自分たちより寿命の短い昆虫などの生き物に抱くような、ある種の「優越感」と逆の感情を持つのもかもしれません。「AIは偉大な」というような。

ヒトには寿命があり、いずれ死にます。そして、世代を経てゆっくりと変化していく——それをいつも主体的に繰り返してきましたし、これからもそうあることで、存在し続けていけるのです。AIが、逆に人という存在を見つめ直すいい機会を与えてくれるかもしれません。生き物は全て有限な命を持っているからこそ、「生きる価値」を共有することができるのです。

同様にヒトに影響力があり、且つ存在し続けるものに、宗教があります。もともとその宗教を始めた開祖は死んでしまっても、その教えは生き続ける場合があります。あります。そういう意味では死にません。

ヒトは病気もしますし、歳を重ねると老化もします。ときには気弱になることもあります。そのようなときに死なない、しかも多くの人が信じている絶対的なものに頼ろうとするのは、ある意味理解できることです。AIも将来、宗教と同じようにヒトに大きな影響を与える存在になるのかもしれませんが。

宗教は、付き合い方を間違えると、戦争やテロにつながるの歴史からご存じの通りです。ただ、宗教のいいところは、個人が自らの価値観で評価できることです。それを信じるかどうかの判断は、自分で決められます。それに対してAIは、ある意味ヒトよりも合理的な答えを出すようにプログラムされています。ただ、その結論に至った過程を理解することができないので、人がAIの答えを評価することが難しいのです。「AIが言っているのでそうしましょう」となってしまいかねません。何も考えずに、ただ服従してしまうかもしれないのです。

それではヒトがAIに頼りすぎずに、人らしく**X**を繰り返して楽しく生きていくにはどうすればいいのでしょうか？

その答えは、私たち自身にあると思います。つまり私たち「人」とはどういう存在なのか、ヒトが人である理由をしっかりと理解することが、その解決策になるでしょう。

人を本来の意味で理解したヒトが作ったAIは、人のためになる、共存可能なAIになるのかもしれませんが。そして本当に優れたAIは、私たちよりもヒトを理解できるかもしれません。さて、そのときに、その本当に優れたAIは一体どのような答えを出すのでしょうか？——^④もしかしたらAIは自分で自分を殺す(破壊する)かもしれませんね、人の存在を守るために。

小林武彦『生物はなぜ死ぬのか』より

* AI……人工知能。

* 脆弱性……もろくて弱い性質。

* 凌駕……追い抜いて上回ること。

* エイリアン……宇宙人、または宇宙人のように異質に見える人。

問一 文中の二か所の **X** には、どちらも同じ四字熟語が入ります。最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 試行錯誤 **イ** 一期一会 **ウ** 三寒四温 **エ** 喜怒哀楽

問二 文中の **A**、**C** に当てはまる語として最も適するものを、次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア ところで **イ** 例えば **ウ** だからこそ **エ** しかし

問三 — 部①「問題はありませぬ」と筆者が言うのはなぜですか。最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 機械学習型 AI が出すべき答えは、すでにヒトが知っているものであり、AI が答えられなくてもヒトが答えられるから。

イ 機械学習型 AI は答えを知らないヒト向けのものであり、答えを知っているヒトはそれを使う必要がないから。

ウ 機械学習型 AI が過去の事例にないケースを判断できなくても、それを学習すれば次からは判断できるようになるから。

エ 機械学習型 AI は学習したデータから最適な答えを導き出すことができ、ヒトはそれを手助けするだけだから。

問四 — 部②「何よりも私が問題だと考えるのは、AI は死なない、ということですよ」について、AI が「死なない、ということ」が問題である理由としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア AI は人間の世代を超えて生き続けるので、人間にとって親の能力を超えた AI が生まれたときから存在していることになる、つい信賴したり、偉大だと思ったりしてしまいがちになるおそれがあるから。

イ 人間は、寿命があってもいつかは死んでしまい、その変化は世代を超えたゆっくりとしたものであるが、一方の AI は、死ぬことなく生き続け進歩し続けるので、その変化を人間が理解したりコントロールしたりすることが難しくなるから。

ウ 人間は有限の命をもっているからこそ、価値観や人生の悲哀を共有することができるが、一方の AI は死ぬことがなく、それらを人間と共有することができないため、共存することが難しいから。

エ AI は人間に対して影響力があり、存在し続けるという点で、宗教と似ているといえるが、宗教を信じるかどうかを自分で決めないで AI に頼るようになると、戦争やテロにつながってしまうから。

問五 — 部③「教育に時間をかけ」とありますが、私たちがそのようにする理由を説明しなさい。

問六 — 部④「もししかしたら AI は自分で自分を殺す（破壊する）かもしれないね」について、筆者がそう考えるのはなぜでしょうか。~~~~部「ヒトが人である理由」を明らかにしつつ書きなさい。

問七 本文について述べたものとしてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 未来のことを説明するので、「かもしれない」「可能性があります」といった慎重な書き方を多く用いている。
- イ 人間のことを、AIや他の動物と区別するときには「ヒト」、文化や内面を含めて指すときには「人」と書き分けているところがある。
- ウ AIに手助けしてもらおうのがよいという立場と、手助けしてもらおうべきではないという立場を比べて論じており、筆者は後者である。
- エ コンピュータの開発の進歩について、筆者自身が目にしてきたものを具体的に挙げることによって、その勢いの目覚ましさを強調している。

三 次の傍線部の敬語の種類を後の選択肢からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。ただし、その文中での用いられ方が正しくない場合は「エ 正しくない」を選ぼう。

- 1 校長先生がおっしゃったことに感銘かんめいを受ける。
- 2 今日は六時半に起きました。
- 3 母が明日学校にいらっしゃると先生にお伝えした。
- 4 先生が私の作文を拝見している。
- 5 お客様を我が社にご案内した。

ア 尊敬語

イ 謙讓語

ウ 丁寧語

エ 正しくない

四 次の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- 1 スデで鍋なべをさわってしまい、やけどしてしまった。
- 2 私のチームは惜しくも準決勝でヤブれた。
- 3 判断を相手にユダねる。
- 4 この時間の海はマンチョウウだ。
- 5 オリンピックのセイカランナーになった。



